



2024年2月、長野・ホテルメトロポリタン長野にて 「第19回ブレースマイルコンテスト」表彰式が開催されました

矯正歯科専門開業医の全国組織である公益社団法人日本臨床矯正歯科医会（会長：陶山肇）では、2024年2月21日（水）、矯正歯科治療中の方を対象にした笑顔のフォトコンテスト「19回ブレースマイルコンテスト」表彰式を開催しました。本紙では、受賞者を招いて和やかに進化した表彰式当日の様子とともに、受賞者の飾らない本音や受賞作品が選ばれるまでのプロセスなどをご紹介します。



表彰式冒頭で挨拶する、
本会副会長・佐藤 國彦。

359作品の頂点に選ばれた 3つのブレースマイルズ

2005年から始まった「ブレースマイルコンテスト」（以下、ブレスマ）は、矯正歯科治療に積極的かつ前向きに取り組む患者さんの笑顔の写真と、夢や希望にあふれたコメントの双方を審査の対象とするコンテストです。第19回となった今回の応募テーマは「素敵な笑顔にまっしぐら!」。事務局には全国の6歳から82歳までの幅広い年齢層の方から、テーマを表現した359作品も作品が寄せられました。

今回から、最優秀賞が一般部門とキッズ部門に分かれたことで応募者の年代がより幅広くなり、非会員の診療所や病院で治療を受けている患者さんからの応募率も増加しました。後者においては、InstagramなどSNSでの告知でブレスマの認知度が高まったことも関係しているといえそうです。

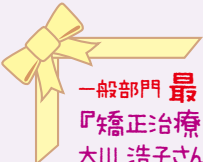
表彰式当日は、キッズ部門最優秀賞の梶川慶人さんと大会賞に選ばれた平林よし子さんがステージから、そして一般部門最優秀賞の大川浩子さんは事前録画した動画から、それぞれに受賞の喜びや治療中の日々を感じることをお話しいただきました。



表彰式では患者さんからの
応募がもっとも多かった
診療所にも賞状が贈られました。



式の最後には、受賞者と主治
医を中心に関係者一同スマイ
ルで写真に収まりました。



一般部門 最優秀賞

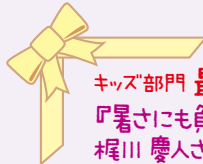
『矯正治療に年齢は関係ない!』
大川 浩子さん（三重県/62歳）



【応募コメント】

私の歯並びはリアス式海岸のようなガチャガチャの歯並びでした。ウララ矯正歯科クリニックの杉村院長のお勧めで矯正治療を始めました。キャンピングカーに乗って日本全国お片付け1人旅を120歳まで頑張るぞお〜!

愛車のキャンピングカーの前で、お気に入りのヒマワリのかぶり物を身につけて撮りました。こんな笑顔になれたのは矯正歯科治療のおかげです!



キッズ部門 最優秀賞

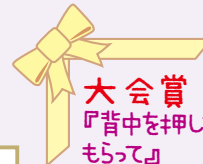
『暑さにも負けない笑顔!』
梶川 慶人さん（愛知県/10歳）



【応募コメント】

痛みに弱い息子。ブレースがつく事で大好きなサッカーの負担にならないかな、痛くて嫌にならないかな、と不安の中始めた矯正でしたが、(親の心配をよそに)サッカー中もこの笑顔!まだ矯正を始めたばかりですが、キレイな歯並びに一歩一歩近づいていく姿を本人も嬉しそうに眺めています!猛暑の中、サッカーフェスティバルで優勝した時の笑顔溢れる思い出の1枚。

矯正歯科治療は最初のときから全然痛くありませんでした。以前は受け口だったけど、それも治ったし、毎月の通院が楽しみです。



大会賞

『背中を押してもらって』
平林 よし子さん
(長野県/61歳)



【応募コメント】

還暦を迎える少し手前。仕事も辞め、時間もある事だから『おもいっきり笑って人生楽しむ為』『歯周病リスクを減らして健康である為』に主人より矯正の提案をされました。正直年齢的に、矯正するべきなのか心配は大きかったです。5本の抜歯も決断が中々つかず、様子を見ながらの治療でした。ようやく歯並びが整ってきた今「矯正を始めて良かった」と心から思います。矯正が終わったらたくさん食べ歩きをして、今まで大きな口を開けるのが恥ずかしくてトライできなかったコーラスも始めてみようかなと思います。矯正を薦めてくれた主人には、心から感謝です。ありがとう。

最初は、この年で治療できるの?とおっかなびっくり。でも先生を信じて始めてみて、歯って本当に動くんだと実感しました。



「第19回 ブレススマイルコンテスト」の 舞台裏レポート

表彰式という晴れ舞台によりよい笑顔で臨めるよう、受賞者の皆さんには当日少し早めに会場にお越しいただき、治療を始めたきっかけや受賞作品に込めた想い、ブレス（矯正装置）が取れたらしてみたいこと等々をうかがいました。患者さんのリアルな声をご紹介します。

ブレスは、第二の人生を楽しむ私の相棒 一般部門 最優秀賞 大川 浩子さん（三重県／62歳）



還暦を前に、経営していた会社を息子に譲り、退職金代わりに手に入れたキャンピングカーを駆って、お片づけコンサルとして全国を巡っています。依頼主のもとに行くまでの道りは、私にとって一人旅。各地の温泉に入ったりしながら楽しんでいます。ブレスマに応募した笑顔の写真は、そんな私の愛車と一緒に写したものです。

実は、50代のおとき、マウスピース型の装置をつけて治療をしたことがあります。でも、3年経っても歯並びが揃いませんでした。

それでその治療をやめ、別の矯正歯科医のもとで、ブレスをつけた治療を始めたのが1年半前。今はまだ治療中ですが、歯がきれいに並んできたのがうれしくて、大きな口を開けて笑うことができます。本当に治療してよかったと思っています。



表彰式より。事前録画した動画で喜びを語る大川さん。

カラーゴムの色を自分で決めて楽しんでいます！

キッズ部門 最優秀賞 梶川 慶人さん（愛知県／10歳）



応募した写真は、去年の夏、所属しているクラブチームのサマーフェスティバルで試合の後に撮影してもらったものです。サッカーは幼稚園の頃からしているから、もう7年くらい続けています。ポジションはボランチ。いちばんよく走るポジションです。

僕が矯正歯科治療を始めたのは去年の8月。もともと上と下の歯の咬み合わせが逆で受け口になっていて、下の歯並びにはデコボコもあったので治療することになりました。治療するのは、いやじゃなかったです。歯並びを治したかったし、治療もそんなに痛そうじゃなかった。僕が思っていたとおり、はじめてブレスをつけた

ときから痛みを感じなくて、ご飯も普通に食べられたし、サッカーもこれまで通りにできました。今は、通院のたびにブレスにつけるカラーゴム※を何色にするかを考えるのが楽しいです。これまでにしたのは赤とか黄色。今日は表彰式のために青にしてみました。

※ワイヤーをブラケットに固定するための小さなゴムのこと。

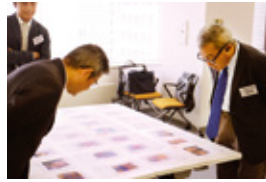


表彰式より。本会副会長から賞状を受け取る梶川さん。



受賞作品が 決まるまで

2023年9月21日（木）、集まった全応募作品を机に並べ、主催である日本臨床矯正歯科医会や関連団体の代表者らが一次審査を行いました。そこで12作品に絞り込み、後日、10月24日（火）日本矯正歯科学会の会場での二次審査を経て、今回の受賞3作品が決定しました。受賞者には以下の賞金が授与されました。また、応募者全員には、ブレスマ記念ポスターが進呈されました。



- ★最優秀賞（一般・キッズ）
賞金各10万円
- ★大会賞 賞金 3万円
- ★入選 QUOカード 5千円分

口の中の問題を解決するきっかけをくれた 矯正歯科治療

大会賞 平林 よし子さん（長野県／61歳）



もともと私には八重歯があり、下の前歯も重なっていたので、中学生の頃に矯正歯科治療をすすめられたこともありましたが、でも、当時のブレスは今よりずっと目立っていたので抵抗があつて。そのとき治療しなかったのもう自分の人生に矯正歯科治療はないと思っていたんです。それがこの年になって主人の言葉で治療を考え出し、それなら気になる部分だけブレスをつければいいのかと思い、矯正歯科に相談に行ったら、私の場合、歯並びがデコボコしているだけではなく、咬み合わせがずれていると先生に言われてびっくり。結局、すべての歯にブレスをつけて治療することにしました。ほかに、治療の途中で小さなむし歯が発見されたり、普段から舌で歯を押す癖があることがわかったり。治療しなければ知ることのなかった様々なことに向き合い、改善することができて本当によかったと思っています。



表彰式より。主治医から花束を受け取る平林さん。



「第19回ブレススマイルコンテスト」表彰式の様子は、公式ホームページ内「トレンドウォッチ」コーナーにて5月頃掲載の予定です。
←公式トップページ

今年始まる「第20回ブレススマイルコンテスト」の情報は、公式ホームページにて6月頃発表の予定です。
公式ブレスマページ→

